

福岡空港の春日基地飛行場地区について

西部航空方面隊オピニオンリーダー

手嶋 文史

航空自衛隊春日基地は、西部航空方面隊司令部、西部航空警戒管制団司令部、第2高射群本部、西部航空音楽隊、第2移動通信隊等のある北地区と西部防空管制群等のある南地区及び西部航空方面隊司令部支援飛行隊、春日ヘリコプター空輸隊等のある飛行場地区に分かれている。

今回は、訪問・利用した方しか知らない存在である、福岡空港の春日基地飛行場地区を紹介します。

飛行場地区では上記の西部航空方面隊司令部支援飛行隊、春日ヘリコプター空輸隊の他に西部警戒管制団整備補給群・基地業務群の部隊及び春日気象隊板付気象班があり、運用業務支援にあたっている。



西部航空方面隊司令部支援飛行隊(以後、「西司飛」と省略)に初めて伺ったのは、T-33 を運用していた平成4年頃で、場所は福岡空港A地区(現在の国際線ターミナル付近)の旧米軍の格納庫であった。この旧西司飛の格納庫はコンパクトであり、かつ古いので風通しの良さが抜群であるという良い面もあったが、当直以外は春日基地からの通勤であり、食事は春日基地からの運搬食であった。また自衛官以外の我々が入門する際は、福岡空港敷地内のため空港事務所の許可証が必要であったりと不便な面もあった。

当時の春日ヘリコプター空輸隊(以後、「春ヘリ」と省略)は仮住まいのためシンプルな建物で、現在の西司飛の格納庫横の器材庫がCH-47Jの格納庫だった。

春日基地飛行場地区は平成 6 年に現在地の福岡空港国際線ターミナル南側C地区へ移転、9 月 26 日より運用が開始された。



西司飛は、板付空輸ターミナルに飛来する定期便(週6便(C-1・C130)、臨時便として(KC767・YS11))等の航空自衛隊機の支援、その他の海上自衛隊の外来航空機、陸上自衛隊の外来航空機の発着支援、航空自衛隊各飛行隊連絡用のT-4及びその他の外来機の支援全般を行う。また、T-4を運用して、陸自の高射部隊に対する目標機支援、災害地の偵察などの何でもこなす。しかし、西司飛は、現在パイロットが少ないので、DO担当(指揮所幹部)、その他の業務が重なると、飛べるパイロットが足りなくなるようだ。



春へりはCH-47Jを運用し、これまで山林火災消火活動8回・患者空輸3回を含む数多くの災害派遣に出動(阪神淡路大震災・新潟県中越・福岡県西方沖・岩手宮城内陸地震・東日本大震災はもちろん出動)しながらも、本来の任務である西空管内のレーダーサイト等の分屯基地への人員物資輸送をこなす。

春へりは福岡空港との協定で、1日4回の離陸及び着陸の制限、災害時以外の土・日曜の離発着禁止、離発着時間が7時から19時までといった制限があるが、田中隊長以下隊員はこの暑さにくじけることなく、冷房のないCH-47Jで奮闘している姿が美しい。

福岡空港の災害派遣といえば、平成8年6月のガルーダインドネシア航空機離陸事故が思い出される。航空自衛隊の活躍はあまり報道されなかったが、航空自衛隊の消防隊はいち早く現場に到着し活動しており縁の下の力持ち的存在であった。福岡市の一般消防隊は航空燃料の刺激が皮膚に及ぼす影響を理解しておらず、足に炎症を起こす隊員が多数見られた。

この時の航空自衛隊春日基地飛行場地区消防隊、西司飛・春へりの対応は素晴らしいものであったとの感想を私は持った。この活動が評価され、のちに運輸大臣より表彰されている。

福岡空港に自衛隊の部隊があることはあまり認識されていないが、このようなところでも自衛隊は地道に活動を続けている。

【以下写真】

福岡空港東側道路より見た春日基地飛行場地区の風景(下に示した写真)一般の人たちには、隣在の海上保安庁の福岡基地、福岡県警察航空隊の基地、福岡市消防局消防航空隊の基地と同化して見えているのかもしれない。



自慢話ではないが、西司飛の尾翼に輝く 飛行隊の部隊マークは、T-33からT-4への機種変更に伴い部隊マークを新しくするためデザインの募集があり、西司飛整備班隊員の推薦もいただき私の友人の福岡市在住のデザイナー清家氏に依頼、清家氏を騙したことになるのか無償で応募して頂いた。

黒田長政の長兎・金印・背景の青は玄界灘の波を表わす デザインで好評だと信じている。

